

グループ経営の更なる効率化等に向け、以下の取り組みを推進。

業務の効率化

コスト縮減（再掲）

- きめ細かな管理水準の設定によるメリハリの効いた管理
- 性能規定型発注の導入
- 子会社からの外注費の精査
- 間接経費の考え方の見直し

発注の競争性・透明性の向上（再掲）

- 子会社に発注すべき業務・理由を検証・再整理し、子会社への発注により業務の効率化や品質の向上が期待できないものは一般競争等競争性の高い方式へ切り替え
- なお、子会社との随意契約については、公表対象を拡大し透明性の向上を図るとともに、第三者機関によるチェック等により検証
- 子会社における契約について適切な競争を徹底

体制の見直し

- 事業環境の変化に対応してグループ会社の体制を見直し（トール会社2社体制の見直しなど）

グループインハウス業務のあり方

- 更にグループ内へインハウスすることで効率化等を図る業務を整理

効率性の検証

- 最小経費で最大効果の発現を目指して、定量指標による「見える化」とその検証スキームを構築

品質(管理水準)の確保

お客さまサービスの向上(再掲)

速達性・定時性の確保を前提とした安全・安心・快適な道路サービスの向上のため、グループの総力を挙げて、ハード・ソフト両面から取り組みを推進

技術力の向上

点検、診断、補修の一貫・継続的实施による経験・ノウハウを活用し、技術開発及び点検手法を高度化

技術・品質のモニタリング

業務に係る技術・品質について、想定している水準が確保されているか、期待される効果が発現されているかを継続的に管理・チェックする体制を社内に構築することを検討

リスク対応

想定されるリスクに対応した、管理4業務の機能維持・機能代替策の検討及び措置

グループ経営の活性化

有効な再投資等

グループ事業の将来を見据えた有効な投資や、技術・ノウハウの研鑽、技術力向上のための取り組みを積極的に推進

グループ内の人材活用

グループ内の多様な人材を有効に活用するため、各社の機能や役割に応じた人材活用の仕組みやルールを構築